

(案)

資料2

箕面市教育大綱実行計画 2026

令和8年(2026 年)3月

箕面市

① 小・中学校 9 年間の授業で英語が話せるまち箕面の実現

- 各小・中学校に複数人配置している外国語指導助手を有効に活用し、授業だけでなく日常の様々な場面で子どもたちが生きた英語に触れる機会を増やすことで、子どもたちの「英語を使う力」を高める。
- 異なる文化の人に対しても、目的や場面に合わせて自分の考えや気持ちを伝える力を育てるため、大阪大学や箕面市国際交流協会と連携し、オンラインも活用して、外国の子どもたちと交流する機会を増やす。また AI 英語学習教材を英語コミュニケーション力を高めるための練習として効果的に活用し、実践的な英語力を育成する。
- 9 年間の義務教育を通じて、子どもたちが十分なアウトプットの機会を持ち、実践的な英語力を身につけられる授業を行う。子どもたちが自ら考え、積極的に英語を使って学ぶ「主体的な学び」を大切にし、英語で自分の考えや気持ちを伝える活動を多く取り入れ、実際に使える英語力の育成をめざす。

② 子ども・教職員が ICT を使いこなす学校の実現

- 9 年間を見通した情報活用能力系統表に教材や授業事例をリンクさせ、発達段階に応じた授業を行い、子どもたちの ICT 活用スキル、プログラミング的思考、情報リテラシーを育ていく。また、子どもたちの情報活用能力がどの程度育成されたかを調査し、評価・改善を行うことで、継続的・系統的な情報活用能力の育成を図る。
- 子どもたち一人ひとりの個別最適な学びを実現するため、「箕面子どもステップアップ調査」の結果を基に作成された子どもたちの個人カルテ「ダッシュボード」や、個々の課題に取り組むことができる「AIドリル」の活用を推進していく。また、学習支援ソフト tomoLinks に搭載される生成 AI 機能を用いて教材作成ができる等、教員の校務 DX を促進することで、個々の興味に応じた学びの充実や教員の授業づくりへとつなげていく。
- 児童生徒が ICT 機器を適切に活用するために、各学年の発達段階に応じた情報モラル教育を推進していく。また、引き続きフィルタリング設定により学習に関係のない利用を制限し、学習に集中できる ICT 環境の整備に努める。
- 支援学級在籍児童生徒をはじめ、全ての子どもたち一人ひとりに最適な学びを保障するため、LITALICO 教育ソフト等を活用し、実態に即した個別最適な支援の充実を推進する。

③ 複雑多様化する学校現場に対応した学習支援体制の強化

- 教育委員会事務局に配置された箕面版スクールロイヤーを活用し、学校等でのトラブルへの初期対応の段階から教職員へ助言を行うとともに、教職員向けの保護者対応・体罰防止研修、児童生徒向けのいじめ防止授業等を通じて、子どもたちの最善の利益の追求に努める。
- いじめや不登校等複雑化・多様化する子どもたちの課題に迅速かつ丁寧に対応する体制を強化するため、引き続き授業支援員や校内教育支援センター支援員を配置し、生徒指導担当の専任化や学習支援体制の支援を充実させる。
- 小・中学校に在籍する児童生徒のうち、不登校や病気による長期欠席、生活困窮家庭等により、学習支援が必要な者に対し、サポーターを派遣し、登校支援や学習支援等を行う。
- 多忙な教頭の業務の一部を支援する教頭事務支援員を全校に配置することにより、教頭本来の業務である学校の組織力強化や教員の指導力向上に係る取組に専念できる環境を整える。
- 日本語の理解が困難な児童生徒が在籍する学校に対して、新たに多言語翻訳システムを貸与し、効果検証を行いつつ、引き続き当該児童生徒の実態に応じて従来の日本語指導者及び通訳者による日本語指導や授業通訳も活用することで日本語指導体制のさらなる充実を図っていく。当該児童生徒の学習機会を保障するとともに、ともに学べる環境を整え、児童生徒相互の多文化理解にもつなげていく。

- 学校に録音機能付きの電話を導入し、電話対応時間の見直しを進めることにより、教職員の電話対応の質の向上とともに、学校に対する過剰な苦情や不当な要求等への公正かつ適正な職務執行体制を整備し、教員が児童生徒と向き合う時間を確保していく。

④ 子ども達の体力向上

- 中学生の体力向上を目的に、体力向上推進モデル校を選定し、授業研究・授業改善を進め、好事例を全校に共有していく。
- 家庭で短時間に手軽に取り組める運動遊びの普及を図り、日常生活の中で児童生徒が主体的に体力の向上に親しむ習慣を促していく。
- 水泳授業民間委託事業について、令和 8 年度から全小学生を対象に小学校・一貫校において全校展開する。新設される市民温水プールにて 9 校（萱野北小学校、箕面小学校、彩都の丘学園、とどろみの森学園、中小学校、豊川南小学校、萱野東小学校、西小学校、東小学校）、民間プールにて 5 校（北小学校、萱野小学校、豊川北小学校、西南小学校、南小学校）での効果検証を行っていく。
- 令和 9 年度中の部活動の終了に向け、令和 8 年度はみのお地域クラブ創設支援補助金やみのお地域クラブ参加促進補助金を整備することで、みのお地域クラブの拡充を図るとともに生徒が参加しやすい環境を整える。

⑤ 小・中学校で分断されない、一貫した教育の実践

- 「箕面子どもステップアップ調査」の結果を指標として活用することで、学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、基礎学力の定着を図っていく。
- 令和 6 年度から 2 つの中学校区に配置している小中一貫教育推進コーディネーターのさらなる活用や、「箕面子どもステップアップ調査」の結果から見えた成果と課題を中学校区で共有することにより、9 年間を見通した小中一貫教育をさらに進め、9 年間の系統立てた指導の充実化や教育の質の向上を図っていく。
- 箕面市支援教育方針に基づき、児童生徒が適切な学びの場において 9 年間を通してその可能性を最大限に発揮できるよう、教職員の専門性向上を図るとともに、支援学校リーディングスタッフによる巡回相談の充実、就学前から就学後への円滑な接続及び小・中学校間の確実な引継ぎ体制の強化を進め、支援教育の質の向上に取り組む。
- 家庭の経済的な負担軽減を図るために、小中学校の給食費を無償化する。大阪青山大学と継続して連携し、より豊かでおいしい低アレルゲン献立給食を提供するとともに、地産地消率を高め、給食を生きた教材として活用し、9 年間で連続性のある食育を推進する。

① 真に使い勝手の良い子育て支援施策の展開

- 子どもを持つことを希望する夫婦への経済的な負担に対する支援、また、経済的にも身体的にも負担のかかる妊娠期から1歳までの子育てに対する支援を実施することで、妊娠前から子育て期までの切れ目のない支援を強化する。具体的な施策は次のとおり。
 - ・不妊症・不育症の治療に要する費用の一部助成
 - ・妊娠期から1歳の誕生月までの時期における家事・育児を支援するヘルパー派遣
 - ・生後3か月から1歳の誕生月までの時期におけるおむつ・ミルクなどの支給品の配達
- 全ての妊産婦・子育て世帯を対象に、伴走型の相談支援、支援が必要な妊産婦・子育て世帯への家庭支援サービスを盛り込んだサポートプランの作成による計画的かつ包括的な支援を行う。
- 子どもの豊かな成長のため、4か月児健診の場で、絵本をひらく「楽しい経験」と「絵本」をプレゼントするブックスタートの取組を実施し、親子ともに絵本に親しむきっかけをつくる。小学校入学に向け、引き続き図書館や絵本に親しめるよう、図書館による取組を乳幼児健診等で周知する。
- 就園前の親子が気軽に集い、子育てに関する相談や支援を受けられる場として、西部・中部地域に加え東部地域にも子育て支援センターを開設し、支援を充実させる。

② 待機児童ゼロの実現

- 待機児童の解消に向け、民間保育施設における新たな保育士確保と、現に働く保育士の離職防止の双方の観点から、就職支援補助金や生活支援補助金等の保育士確保施策の効果検証や見直しを行い、保育ニーズや民間保育施設の定員確保の状況に応じた保育士確保策を推進する。
- 家庭で子育て中の保護者が利用したいタイミングに一時保育を利用できるよう、民間保育施設での実施に加え、「ちょこっと保育」や令和9年度末開設予定の(仮称)新みのおサンプラザ内での実施を含め、ニーズを的確に把握し、受入体制の充実を進める。また、新たに国による「こども誰でも通園制度」を実施する。
- 公立園の保育士等についても、今後の保育ニーズを踏まえ計画的な採用を実施する。

③ 保育・幼児教育の質の向上

- 令和6年度末に公立幼稚園・保育所の再編計画を見直したことに伴い、令和9年4月のせいなんこども園開園に向け、現桜ヶ丘保育所施設の修繕や改修など、保育環境改善のため工事や備品の調達等を行う。また園務支援・登降園管理システム、大型モニターをかやのこども園、せいなんこども園に導入し、保育のICT化を推進する。
- 市内全ての保育・幼児教育施設等における保育・幼児教育の質向上をめざし、研修会、支援保育・教育に関する研究会及び巡回訪問等を実施する。また、民間園在籍の保育・幼児教育サポーターとともに研修や巡回訪問等を進め、研修等による学びを各園の学びに繋げることをめざす。
- 令和6年度に策定した「架け橋期カリキュラム」の活用に向けて、多くの職員が参加しやすいオンデマンド配信による研修会や、職員同士が交流し、共に学び合いながら共通理解を深める幼小合同研修会などを開催し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組を進める。

① 公共施設の有効活用と生涯学習機会の充実

- 郷土資料館において、市域の歴史をはじめ箕面ゆかりの人物や文化などを、映像やタッチパネル等デジタル機器も活用して展示する。市民が気軽に郷土の歴史に触れ、郷土愛を育む場を提供するとともに、市外から訪れた学生や観光客に向けて箕面の魅力を発信するため、企画展や関連イベントを定期的開催する。また、史跡の保護や見やすい案内看板の設置を進めるとともに、箕面市・箕面市教育委員会が主催するみのお八天石蔵ウォークトライアルといった史跡を活用したスポーツイベントなどのPRを他課室と連携して行うことで、市内各地の旧跡や文化財について興味を持っていただく機会を増やす。
- 生涯学習講座やシニア塾などを通じて、受講者同士が交流することで、講座後のグループ活動への加入など学びの場の広がりや継続に繋がるとともに、豊かな感性や情操を育むため、親子や子ども向けの生涯学習講座を企画する。また、国際協力都市であるニュージーランド・ハット市とのオンラインツアーなどの開催を通じて世界に開かれたまちづくりをめざし、国際交流に関する学びの充実を図る。
- 「本のまち箕面」を掲げ、多くの市民が日常的に読書を楽しみ、読書習慣がさらに広がるように取り組む。図書館各館で、絵本の読み聞かせや手遊び、工作遊びなどを体験できるおはなし会を開催し、親子が安心して自由に本を読める交流の場としての空間づくりを進める。また、船場図書館での大学との連携による催しや、西南図書館での映画会、コンサート、ボードゲーム、ブロック遊びなど、親子で楽しめるイベントの開催などにより、図書館が子どもたちにとって学びや交流の場となり、その感受性や共感力を高められるような図書館サービスを提供していく。取組の充実や丁寧な周知によって登録率を伸ばして利用を振興し、全国同規模自治体の貸出冊数1位をめざす。中央図書館と東図書館の自習室を夜間延長し、学生や社会人の勉強や資格取得の場の充実を図る。

② 箕面市アートプロジェクトの推進

- 箕面市アートプロジェクトとして、多くの公共施設を活用し、館内にアート作品を展示し、日常的にアートを感じられ、表情豊かなアートに溢れたまちを創出する。
- 箕面駅前、桜井駅前、箕面船場阪大前駅の野外ステージ等を活用し、学生や市民団体等へ発表の場を開放して利用してもらうことにより、まちなかで音楽やダンスを楽しめる場を提供するなど、子ども達への情操教育の充実を図るとともに、文化活動をより身近に感じられる環境を創出する。
- 豊かな市民文化を育み、個性あふれる生涯学習社会の実現をめざす箕面市民展や、多様な人々が交わり創造する協奏のまちづくりをめざす箕面アートフェスの開催、また新たな展覧会や船場地域でのシンポジウムを開催し、プロのアーティストや作品などと触れられる場を提供するなど、アートプロジェクトの推進を図る。

③ スポーツの機会の充実

- 幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代がスポーツに親しめる機会を充実させるため、運動施設の整備を行う。あわせて、サントリーサンバーズ大阪、ガンバ大阪、大阪エヴェッサ、岩谷産業陸上競技部、オリックス・バファローズなどの本市にゆかりのあるスポーツチームと連携し、市民応援デーを開催する。また、「箕面スポーツカーニバル」などのイベントにおけるトップアスリートによる直接指導や、ガンバ大阪、サントリーサンバーズ大阪の公式戦パブリックビューイングの実施など、市民がスポーツに触れる機会の創出・検討を広く図る。

- 令和 8 年度に開業を迎える市民温水プールについて、小学校水泳授業の民間委託を担うとともに、広く市民利用に供するため、引き続き遅滞なく建設工事を推進する。あわせて、民間活力の創意工夫を最大限に活用し、児童の体力向上はもとより、高齢者をはじめとする全市民の健康増進に寄与する施設を実現するため、供用開始後も指定管理者との緊密な協議を継続していく。
- スカイアリーナ前広場に、大阪エヴェッサから寄贈いただくバスケットゴールを設置し、子どもから大人まで、どなたでも無料で、スポーツを気軽に楽しめる場として活用を図る。